

平滑筋肉腫（へいかつきんにくしゅ）

平滑筋肉腫について

平滑筋肉腫は、平滑筋という内臓や血管の働きを維持する筋肉への分化を示す細胞から構成される悪性軟部腫瘍です。軟部組織だけでなく、筋層をもつ臓器（子宮や消化管など）や血管の壁など、体のさまざまな場所に発生します。

疫学

平滑筋肉腫は軟部肉腫全体の約11%を占めるとされています。発生率は加齢とともに増加し60代で最も多くなると報告されていますが、若年成人や小児での発生例も報告されています。二次性発症の病因としては、放射線照射後の発生や、遺伝的背景（リ・フラメニ症候群や遺伝性網膜芽細胞腫）との関連が報告されています。

発生部位

軟部組織発生の平滑筋肉腫では四肢（特に下肢）、体幹部、後腹膜に多く発生します。また、下大静脈などの大血管に発生することがあるのが平滑筋肉腫の特徴です。軟部組織以外では子宮発生の報告が多く、消化管での発生もまれではありますが報告されています。

症状について

初期には痛みを伴わないしこりや腫れとして気づかれることが多いです。腫瘍が大きくなると、周囲の筋肉や神経を圧迫して痛みやしびれ、運動障害などが生じることがあります。下大静脈に発生し静脈の閉塞を来した場合、上部では肝障害や腎障害、下部では下肢の浮腫などが生じることがあります。

診断について

診断の際は、まず身体所見に加えて MRI や CT などの画像検査を行い、腫瘍の大きさや広がりを把握します。確定診断には生検による病理組織検査が必要となります。

治療について

治療の基本は外科的切除であり、他の悪性軟部腫瘍と同様に広範切除（腫瘍の取り残しがないように、周囲の健常な組織と一塊にして腫瘍を摘出すること）が推奨されます。腫瘍の組織学的な悪性度、発生部位、腫瘍の大きさ、患者さんの年齢や全身状態などを考慮して化学療法を行うことがあります。

執筆者

- 氏名： 酒井 智久（さかい ともひさ）
- 所属医療機関： 名古屋大学附属病院
- 診療科： 整形外科

- 氏名： 西田 佳弘（にしだ よしひろ）
- 所属医療機関： 名古屋大学附属病院
- 診療科： リハビリテーション科